

ランチトーク&ミーティング 「理系女性研究者のキャリア形成」を開催しました

男女共同参画推進室ワークライフバランス・サポートセンターでは、2011年度第9回交流事業として、3月22日に西早稲田キャンパス60号館ワークライフバランス・サポートセンターにおいて、上記の交流会を開催しました。

①理系女性研究者が子育てと研究を両立しつつどうキャリア形成するか、ゲストの話をヒントにさせていただき、②参加者同士のゆるやかなつながり形成の契機の間として利用させていただき、③サポートセンターへの要望事項を参加者から出していただくという趣旨です。

ゲストには、理工学術院の女性准教授、所千晴先生をお迎えし、本学学部時代に研究の面白さに目覚めた端緒に始まり、他大学の博士後期課程への進学、本学に戻り、助手・専任講師と歩まれたキャリアの軌跡と、その間の結婚、出産・育児との両立について話が進みました。

資源循環・環境浄化のための粉体プロセッシングの研究に従事され、研究室に16名の学生を擁する女性研究者で二児の母である所先生から、理系において女性だからといって不自由や障害はなかった、むしろ注目されやりやすかった、子どものいる家庭をもつという価値観に立ち、子育てと研究は両立するという強いモチベーションで、両立のためにどうするか絶えず考えて進んできたという発言に、7名の参加者は熱心に耳を傾けました。

子育てのメリットとして、心の許容範囲が広くなり人間として限りなく成長する、研究職かつ教育職であるので、学生に余裕をもって接することができるようになる、多様性が受容でき柔軟になる、仕事の効率があがる、研究への効用は、アプリケーション面では、いろいろなものの方をふわっとまとめる方法が知らずと見つかるようになり、プロセスの観点では、問題解決能力がつく、と具体例をあげ、出産・子育てを経験できる人には経験して欲しいと語られました。

参加者からは、子育て・研究の優先順位をどうつけてフォローするか、子どもを抱えての学会参加の工夫は、企業で女性研究職を採用する動向について等の質問があり意見が飛び交いました。

最後に所先生は、自分がこう生きたいというイメージを明確にもってオープンに考えを発信し、サポートの求められる居心地のいいコミュニティを探そう、人的資源・社会資源を活用して、キャリアを途絶えさせず継続しよう、適性に合ったあなたの人生を生きてほしいと結ばれました。

参加者の感想は、研究室内が男性ばかりで女性がどうキャリアを積んでいくか悩んでいたが、キャリアを継続する大切さがわかった、研究者と母親が両立できると聴けて心強かった、女性がいると企業がよくなる、子育てをすると人間的に成長できると聴けて将来に希望が持てた、自分の考えを周囲に発信する大切さがわかった、といった声が寄せられました。

サポートセンターでは、2012年度も交流事業を開催いたします。次回は5月に早稲田キャンパスでの開催を予定しています。みなさまの積極的な参加をお待ちしております。

